

北タイ班

ユーミエン(ヤオ)の陸稲播種・収穫作業と労働交換
: タイ北部における焼畑耕作から常畑耕作への移行に伴う変化

吉野 晃 (東京学藝大学)

キーワード: ユーミエン 焼畑耕作 常畑耕作 労働交換 播種作業 収穫作業

The works in seeding and harvesting dry rice and the labour exchange of the lu Mien (Yao): The change in agricultural works accompanied with the transition from swidden to permanent dry field cultivation.

YOSHINO Akira (Tokyo Gakugei University)

Keywords: lu Mien, swidden cultivation, permanent dry field cultivation, labour exchange.

要旨:

筆者が1988～1989年に調査を行ったユーミエン村落PY村で陸稲耕作に関する追跡調査を行った。この村では1990年以降焼畑耕作ができなくなり、常畑耕作に移行した。また、世帯構成についても、父系合同家族から核家族への変化が観察される。

これらの変化を、陸稲耕作作業における労働交換について観察した。常畑化は農耕暦の半月ほどの遅れと作業工程の入れ替えをもたらしたが、労働交換には直接的な影響はない。核家族化は労働交換の規模と交換相手に若干の変化をもたらしている。

1. タイにおけるユーミエン(調査村: パヤオ県チエンカム郡PY村)

タイ北部の山地に居住するユーミエンは、ヤオと他称され、中国南部から東南アジア大陸部に分布する民族である。従来、焼畑耕作を営みながら移住を繰り返して分布域を広げ、19世紀にタイ王国領に移住してきた。かつては自給作物として陸稲・玉蜀黍を、換金作物として阿片ケシを栽培してきた。1958年に阿片の販売・消費が禁止され、1970年代に阿片ケシ耕作に対する規制が強化されるにしたがって阿片ケシから他の換金作物に転化した。筆者がはじめて調査に入った1980年代には、自給作物の構成は従前と同じであったが、換金作物は綿・生姜・大豆・玉蜀黍などに替わっていた。本報告の調査が行われたPY村では、現在は換金作物は玉蜀黍に収斂している。玉蜀黍は自給作物としても換金作物としても栽培されている。但し、村民は玉蜀黍以外に果樹栽培・ゴム栽培も試行している。

調査地はタイ王国パヤオ県(Cangwat Phayao)チエンカム郡(Amphoe Chiang Kham)ロムイエン行政村(Tambol Romyen)に属するPY村である。この村は、チエンカムの町から東北方向へ道のりで20km離れた山中に位置する。村民は基本的には焼畑耕作を行ってきたが、水田を所有する世帯がいくつかあり、かつては隣のタイ・ルー民族の村落の村民に稲を小作させる者も、自作する者もいた。現在は、かつて水田であった土地で玉蜀黍を自作している者が多い。筆者は1987年末～1989年末の正味二年間、この村において集約的調査を行った。本プロジェクトの調査は、2005年6月5日～11日、同11月19日～25日の間に行った。

2. 陸稲耕作: 焼畑から常畑へ

1989年に商業的森林伐採禁止政策が施行された。これは1988年末にタイ南部で豪雨による大規模な土砂崩れが起き、多数の死傷者が出た事件を受けての措置であった。実際にP Y村でこの森林伐採禁止措置が施行されたのは、翌1990年になってからであった。この政策は直接的に焼畑耕作を禁止したものではなかったが、木を伐ることの禁止は、従来行われてきた森林伐開による焼畑耕作を不可能ならしめた。こうして、P Y村では焼畑耕作が終焉し、常畑での耕作へと移行したのであった。森林伐開によって新たな耕地を開くことが不可能となったことで、耕地の拡大は不可能となり、既に焼畑として開いた耕地において持続的に常畑耕作を行うこととなったのである。当然のことながら、森林再生による土壌の肥沃化の効果と雑草抑制の効果を農耕に利用することはできなくなった。肥料と除草剤の購入が必須となり、農耕に投資が必要となった。このため、出稼ぎが増加した。

3. 陸稲耕作作業の変化

こうした経緯で、1988～1989年に筆者がP Y村で観察した農耕作業は、P Y村における最後の焼畑耕作となった。この焼畑耕作から常畑耕作への変化によって陸稲耕作作業がどのように変化したかを見てゆく。

まず、当然のことながら、伐木と火入れの作業が消失した。以前は中国農曆の正月後半から二月にかけて陸稲畑にする場所の伐木を行い、二月中に火入れした。この作業が消失し、現在は農曆四月中に除草剤を撒く作業に替わっている。陸稲の播種作業は、かつて焼畑耕作を行っていたときには農曆四月中に行われた。現在は四月下旬～五月中旬に播種作業が行われる。以前より、半月から一ヶ月ほど播種が遅くなっている。ユーミエンの陸稲播種は突き棒で穴を穿ち、その穴に種子を放り込んでゆく点穴播種であり、これは焼畑耕作を行っていたときと常畑化以降とは変わらない。

収穫作業は、かつて農曆九月から十月にかけて行われたが、現在は十月下旬から十一月中旬に行われる。ユーミエンの陸稲収穫作業は根刈りではなく、穂摘み(cap byau)で行われてきた。穂摘み具を片手で操って穂から20cmほど下の部分を切り取り、束にして稲架(byau-lhaang)に掛ける。しかし、現在、一部の畑では根刈りに移行している。これは、三年ほど前に、村に住む商店主(タイ人)が脱穀車を購入し、脱穀作業を請け負いはじめたためである。脱穀車は脱穀機とトラックが一体になったもので、畑の現場へ移動して行ってそこで脱穀することができる。この脱穀車の利用に対応して、根刈り(kaat byau)した稲束をそのまま畑に寝かしておくやり方を導入する世帯が出てきたのである。こうした根刈りは2004年から始まったという。ただし、2005年11月現在では根刈りしている畑は数カ所に限られている。その他の畑では従来通り穂摘みして稲架に掛けて干し、その後脱穀車を呼んで脱穀している。かつて脱穀作業は稲束を石などに打ち付ける打ち付け脱穀と、稲束を棒でたたき棒打ち脱穀とが併用されていた。こうした打撃による脱穀を総称してボ・ピャオ(boaq byau)とよんでいたが、現在では、こうしたボ・ピャオ作業は消失した。

4. プイコン(pwi kong)：労働交換

ユーミエンの主な農作業は、労働交換による共同労働によって做される。ミエン語ではこの労働交換をプイ・コン(pwi kong)という。Yao-English Dictionary(YED)によると、pwi(YEDの表記ではpwig)は、「交換する、お返しする、暗唱する、記憶する」[Lombard and Purnell 1968: 29]という意味であり、kong(YED表記:kov)は「労働」「仕事」[Lombard and Purnell 1968:126]である。pwi kong(YED表記:pwig kov)は「労働に対して労働でお返しすること」[ibid.]とある。また、プイ・コンのお返しに労働供与することをチャーオ・コンcaau kong(YED表記:Jaauq kov)という。YEDでは、「労働の義務を返すこと」[Lombard and Purnell 1968: 101]とある。このcaauは「返す」こと一般を表す語彙であり、caau nyaan(金を返す)といった言い方をする。筆者の調査村での語法では、広義のプイ・コンは労働交換全般を指し、狭義では、労働交換の労働供与を頼むこと(これに対する反対給付がチャーオコン)である。

農作業の人手を増やす方途としては、日払い労働ツインコンtshing kong(YED表記:Zivq kov)もある。tshingは「雇う」「～の援助を要請する」[Lombard and Purnell 1968:174]の意味である。この雇用は日払いベースであって、ツインコンと言った場合は、通常、日払い労働を依頼することを意味する。PY村では、隣接する

タイ・ルー村落の村人に農作業の手伝いを頼むことがあるが、その場合はチャーオコンではなく、ツインコンとなる。パイコン・チャーオコンの交換は民族境界を越えては做されない。一方で、相手がユーミエンであっても、頼む仕事の量がチャーオコンできないほど多い場合は、ツインコンする。

パイコンは、交換行為としてみれば、労働と労働の交換である。農作業は世帯あるいは世帯内の核家族を単位として行われ、その農耕単位間で労働交換が行われる。すなわちある農耕単位Aの農作業に他の単位Bから二人が一日手伝いに来れば、後日Bの農作業にAから二人が一日手伝いに行く(チャーオコン)といった形である。

4. パイ・コンを頼む社会関係

ここで問題となるのは、その交換のやり取りと、交換の主体となる農耕単位が如何に括られるかである。ユーミエンの世帯(ピャオ pyau)は従来、父系合同家族を理想的モデルとして構成されてきた。男性世帯主の父系祖先を祀り、夫方居住婚を標準とする家族構成であり、ピャオをめぐる社会カテゴリーも父系親族に偏重する傾向がある。男性世帯主(ピャオ・ツョウ pyau tyou)から見たカテゴリーは以下の通りとなる。(1)父系親族:エゴの父系親族。(2)母方親族:エゴの母方親族。(3)妻方姻族:エゴの妻方親族(姻族)。(4)エゴの姉妹・娘の嫁ぎ先のピャオ。(5)近隣・村内・隣村(ユーミエン村落):エゴにとって直接の親族関係も姻族関係もない地縁関係者。

父方親族は、儀礼の時にも協同する機会が多く、フォーマルな面でのつながりが強い親族である。理想とされる父系合同家族の類型を基軸として親族が分類される。同じ父系の祖先を祀る親族がここでいう「父系親族」である。男性世帯主をエゴとしたときの母方親族、妻の親族(姻族)、姉妹・娘の嫁ぎ先は、その祖先の系譜に連ならない親族と姻族を意味する。この意味で、ユーミエンにとっては、父系親族とは区別される。ユーミエン社会で自律集団はピャオしかなく、父系の系譜もピャオを一つの基準として考える。それ故に親族/姻族の関係よりもピャオの系譜に連なるものとそうでないものの対立が重要となる。このため、(2)~(4)をまとめて、表の合計欄で「父系親族以外の親族と姻族」という言い方で表した。

5. パイコンの変化

1988~89年当時と、2005年現在とでは、パイ・コンに変化はあったであろうか。1988~89年には、パイコンに頼む相手は、父系親族が23.6%、父系以外の親族と姻族が14.8%であり、地縁による以来は57.5%となっている。ユーミエンの場合、父系親族とくに兄弟は同じ村に住むことが多いので、いきおい、父系親族がその他の親族・姻族よりも多くなる。一方、親族・姻族ではない近隣者が57.5%を占めている。ユーミエンには儒教的な父系重視の親族イデオロギーがあり、儀礼のフォーマルな表現でも屢々表れる。しかし、実際の農作業においては、父系の関係が特に重視されているわけではない。

一方、2005年の段階では、1988年~89年当時の傾向を増大する方向でパイコンの依頼先の変化がすすんだ。即ち、地縁関係によるパイコン依頼が増え、全体の三分の二を超えた。一方で先に述べた父系親族以外の親族と姻族は相当に減っている。これは村外婚の増加によるものと考えられる。

陸稲耕作作業におけるパイコンの規模は縮小している。これは核家族化によって、陸稲耕作単位が少人数化しているからである。1980年代にはピャオの実体的組織は父系合同家族の理念に概ね沿ったものであった。1988年当時、22世帯中6世帯が父系合同家族で、1世帯が双系合同家族であった。一方、2005年現在では核家族化が進み、47世帯中合同家族は3世帯で、そのうち父系合同家族は1世帯しかない。

ユーミエンは自給作物として陸稲、換金作物としてかつては阿片ケシ、その後綿やショウガ、玉蜀黍、果樹などを栽培してきた。父系合同家族の場合、かつては陸稲はピャオ単位で、換金作物は核家族単位で耕作するのが通例であった。もっとも、表1にあるように、1988-89年時点で既に陸稲耕作単位として合同家族内の核家族単位がパイコンを依頼する単位となる事態がこの時点で既に顕れていた。この傾向は1990年代を経て2000年代にいたり、より加速された。即ち、ピャオの分立(ブンチャー pun caa)がより早期化し、核家族ピャオが増加した。1世帯あたりの人口が減り、自給作物耕作単位が換金作物耕作単位と合致すれば、世帯あたりの陸稲作

付け量は減る。また、最近では換金作物としての玉蜀黍栽培が軌道に乗ってきたので、米を市場で購入する選択肢も増えた。播種・収穫の一定の期間内に作業を行う単位数が増加したため、同日にパイコンを行う単位数も増加した。この結果として、陸稲耕作作業における一回あたりのパイコンの動員数も減少したのである。

6. 結語

焼畑耕作から常畑耕作への転換は農作業暦のずれ込みや、常畑化に伴う農作業の入れ替えをもたらしているが、パイコンには直接影響していない。一方で、核家族化の進行が陸稲耕作単位の変化とパイコン規模の変化をもたらしている。他方、脱穀車の導入による脱穀作業の変化（根刈りへの変化）が見られたが、これは常畑化と核家族化には直接関連しない変化である。今後の課題は、(1) 農耕作業の変化をより詳細に記録することと、(2) パイコンに関するデータを更に累積して核家族化との関連を更に細かく分析することである。

参考文献

Lombard, S.J(compiler) and Purnell, H.C.(ed.) 1968 Yao-English Dictionary. Ithaca: Cornell University.

注：本稿におけるミエン語（ユーミエンの用いる言語）の表記は、印刷の煩瑣を避けるため IPA をそのまま用いず、筆者が手を加えたものを用いる。子音・母音ともにローマ字読みするが、幾つかの付則をもうける。子音の h は帯気音を示し、例えば th は帯気歯茎破裂音 [tʰ] を示す。その他の付則は以下の通り。子音：c= 不帯気の硬口蓋摩擦音 [c], j=[ɟ], ng=[ŋ]（ng は末子音、頭子音のいずれにもなりうる）、ny=[ɲ]。母音：a=[a], aa=[aː], ae=[ɛ], oa=[ɔ], oe=[ə], ou=[əw], oi=[ɔj] とする。声門閉鎖は q で示す。

ABSTRACT :

The lu Mien of PY Village (Tambol Romyen, Chiangkham District, Phayao Province) have experienced a change in their dry rice cultivation. The swidden cultivation has not been conducted since 1990 and then they cultivate rice on permanent dry fields. On the other hand, lu Mien household composition has been changed since 1988; the decrease of patrilineal joint families and the increase of nuclear families.

The shift towards permanent field cultivation influenced their agricultural calendar and the increase of nuclear family households has influenced their labour exchange. Some works in swidden were disappeared and other works were introduced. Their agricultural calendar was shifted afterwards in half a month. The increase of nuclear family households resulted in changes of labour exchange; the size of labour exchange per a day was decreased and local ties, rather than kinship and affine ties, increased in their labour exchange counterparts.

表2 PY村におけるパイ・コンと社会関係(2005年5月,6月,11月)

日付	耕作単位	作業	パイ・コン 総人	「父方」 親族 共翁太	母方親 族	妻方姻 族	姉妹・ 娘の嫁 出先	近隣	村内	隣村	不明
050521	2A	播種	2	0	0	0	0	1	1	0	0
050521	13D	播種	12	2	0	0	2	6	2	0	0
050523	13A	播種	8	0	0	0	3	3	2	0	0
050530	5A	播種	12	0	0	12	0	0	0	0	0
050530	9B	播種	15	8	0	0	0	7	0	0	0
050531	16A	播種	8	6	0	0	0	2	0	0	0
050603	11D	播種	6	6	0	0	0	0	0	0	0
050604	20A	播種	10	2	0	0	0	2	6	0	0
050604	7A	播種	1	0	0	0	0	1	0	0	0
050604	17Bb	播種	12	2	0	2	0	1	7	0	0
050605	11B	播種	12	6	0	0	0	6	0	0	0
050606	11A	播種	6	2	0	0	0	2	2	0	0
050606	9A	播種	8	6	0	0	0	0	2	0	0
050606	11C	播種	4	0	0	0	0	0	4	0	0
050607	4A	播種	5	2	0	0	0	0	3	0	0
050608	18B	播種	9	0	0	2	0	2	5	0	0
050608	5B	播種	8	8	0	0	0	0	0	0	0
050608	14C	播種	10	0	0	0	0	6	4	0	0
050608	14C	播種	12	2	0	0	0	2	8	0	0
050608	17B	播種	6	2	0	0	0	2	2	0	0
050609	45B	播種	8	1	0	0	0	6	1	0	0
050610	11E	播種	2	0	0	2	0	0	0	0	0
050610	19A	播種	6	0	0	0	0	5	1	0	0
050610	13C	播種	6	0	0	0	0	5	1	0	0
050610	19B	播種	9	5	0	0	0	4	0	0	0
050610	13B	播種	12	0	0	0	0	12	0	0	0
050610	6b	播種	7	0	0	6	0	0	1	0	0
050611	15A	播種	8	4	0	0	0	2	2	0	0
050611	45A	播種	23	0	0	0	0	10	8	0	5
050611	7B	播種	8	0	0	0	0	6	2	0	0
050611	12A	播種	12	0	0	0	0	8	4	0	0
050611	21A	播種	12	0	0	0	0	0	12	0	0
051121	19B	収穫	17	6	0	0	0	9	2	0	0
051122	7B	収穫	8	0	0	0	0	4	3	0	1
051122	6A	収穫	7	0	0	0	0	2	5	0	0
051123	6A	収穫	4	0	0	0	0	0	4	0	0
051123	13D	収穫	5	0	0	0	2	0	3	0	0
051124	17B	収穫	8	2	0	0	0	1	4	0	1
051124	9B	収穫	4	0	0	0	0	3	1	0	0
		合計	332	72	0	24	7	120	102	0	7
		平均	8.51	21.7%		9.3%		66.9%			

関係分類等、再検討の余地有り。この他に未整理のデータ有り。

A,B,Cを付した番号は表1のピャオから分立したピャオを示す。